

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200260		
法人名	社会福祉法人 慈孝会		
事業所名	麗の郷なごみ		
所在地	岩手県二戸郡一戸町姉帯字下村24-1		
自己評価作成日	平成29年1月24日	評価結果市町村受理日	平成29年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2016.022.kani=true&amp;ji.gvosvoQd=0373200260-00&amp;Pr.efQd=03&amp;Ver.s.onQd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2016.022.kani=true&amp;ji.gvosvoQd=0373200260-00&amp;Pr.efQd=03&amp;Ver.s.onQd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内		
訪問調査日	平成29年2月16日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○礼節を旨とし、その人の可能性を引き出しながら、その人らしさを大切に、いつも寄り添ったケアを提供します。  
○当事業所は、特別養護老人ホームと同敷地内にあり、要介護度が重度化になった場合は、アフターフォローができる状況にあります。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●礼節を重んじ、利用者の尊厳を守っている。居室においても家具調ポータブルトイレの活用、オムツ等着用物も押入れの中に収納する等、細部にも配慮が見られる。  
●排泄の自立支援への取り組みが積極的になされている。利用者の状態の把握や職員間での情報共有がなされており、トイレでの排泄を基本とし、機能の維持を目指して取り組んでいる。  
●重度化に対する取り組みがなされている。出来る限り、事業所での入浴を目指し、浴槽をリフト浴にしている。トイレにファンレストテーブルを装着しており、トイレに座った際に前方にバランスを崩さないよう、また、いきめるよう配慮がなされている。  
●職員間の連携や関係性が良いことが窺い知れる。利用者、職員ともに、穏やかな空間でくつろいでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○法人理念と方針は年度当初に全体職員会議で周知している。また、事業所内に掲示し、朝礼の際には唱和している。事業所理念は作っていないが、年度の目標(礼節を基本に、おもてなしの心を持って、快適な生活が送れるよう支援します)を定めて取り組んでいる。	法人理念に基づき、事業所毎の目標を立てて取り組んでいる。「利用者の生活の尊重」「介護力の向上」「事故防止」を目標に掲げ、さらにその取り組み目標を立て、具体的な取り組みがなされている。折に触れて、職員間で確認されるほか、年度末に反省と次なる目標を立て、毎年、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域の婦人会の方々に敷地内の草取りに来ていただいている。 ○夏祭り行事を通じ、地域の方々とつながりを持っている。 ○ボランティアによるコンサートを開催している。	地元の自治会に法人として加入している。町内の季節ごとの清掃活動、お盆時期の墓地までの道の草取り・清掃などの活動に参加している。小鳥谷小学校から、収穫祭の時に収穫した農作物を頂いている。婦人会の方々が踊りなどで来訪される際に、ポスターを作り、地元の方々にも集まっていただけるような取り組みも行っている。また山里一座(踊り、歌など)の訪問などもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○運営推進会議を通じて、利用者家族や地域住民に、事業所としての活動内容や介護保険制度について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○地区の民生委員の方々にも参加していただき、取り組み状況の報告とともに意見もいただいている。 ○意見や要望等がある場合にはサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議の委員は、各方面から多くの方がメンバーになっており、意見等をいただいている。利用者家族の方より、利用者の方の筋力低下に関する意見を頂き、筋力低下防止に積極的に努めている。敬老会と運営推進会議を絡めて実施したこともある。	運営推進会議の開催について、現状では4ヶ月に1回となっているが、2ヶ月に1回の開催が必須となっていることから、行事と絡めた開催や、避難訓練等と絡めた開催など、会議の運営形式に工夫しながら、開催頻度を増やしていく取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○運営推進会議には、行政からも委員として入ってもらい連携を図っている。	地域包括支援センターとのやり取りが多く、包括支援センターから研修案内(医療連携等)を頂き、出席したり、また、市からは、総合事業について、事業所として協力して頂きたいことの依頼を受けている。地域包括支援センターの方に、運営推進会議にも出席して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○身体拘束に関するマニュアルを基に入居者の行動を制限しないように心がけている。 ○玄関は、夜間以外は施錠していない。	「身体拘束ゼロの手引き」をもとに、職員会議で確認し合っている。居室においても、センサーマット等は使用せず、見守りで利用者の安全な生活を支援している。法人の職員が外部研修に出席した際には、伝達研修により内部職員も情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○外部での研修に参加した職員による伝達研修会を行い虐待の早期発見や防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○必要性がある場合には対応できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○入居前に十分な時間をとり説明した上、契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○苦情事、相談事受付ポストを設置。 ○苦情・意見・要望処理検討組織図を事業所内に掲示している。 ○面会時、運営推進会議等で意見を聞きサービスに活かしている。	毎月、家族にはお便りで利用者の様子をお知らせしている。お便り等を見て気になる点があれば、家族から電話で連絡が来ている。また、利用者の様子を観察し、職員間で共有しながら利用者の不安排除の取り組みが行われている。利用者の日課(定期的に栄養ドリンクを飲むこと)が継続できるように、(利用者の声により)様々な工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○月1回の職員会議において、職員の意見を吸い上げ、実現可能な意見については、運営に反映している。 ○管理者と事業所リーダー職員は、法人主催の経営戦略会議に出席し、その結果を、職員会議で報告している。	毎月の職員会議で、ケース検討等が行われている。職員からの意見で、グループホームでの食事の形態を変えたこと、浴槽の改修などがある。また、天窓の結露により水滴が落ちてくることの解消について検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○交流の場、趣味事をもつことを推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○新人職員への研修開催している。 ○外部研修への参加、法人内部での勉強会の開催を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○グループホーム協会における研修会等への参加。 ○他グループホームとの交換研修の実施。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○基本情報を職員へも周知している。 ○入居申し込みの際、聞き取りに時間をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○入居申し込みの際、聞き取りに時間をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○面談の際、聞き取りによりニーズを把握出きるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○食事の後片付け、洗濯物たたみ等でできることはともに行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○通院や行事等家族へも声掛けし同行、参加してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○地域の行事等に参加したり、施設内においても知人との交流は図っている。	隣接しているデイサービスにきている友人に会いに行く方がいる。地元の祭りの「こずや祭り」の音頭上げにきてくれる。親戚・家族の来訪がある。遠方の出身の方の地元からお手紙が来ることもある。事業所開設当初から訪問理容もあり、新たな馴染みにもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○お客様同士の相性を考えた対応や配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○必要があれば支援できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○利用時の面談、その後の生活の中で会話等の中から、希望や意向を把握できるように努めている。	利用者の日常の様子を観察し、ケアに活かしている。希望や意向の表現がなくても、(利用者の)意に反したことをすると表情に出ることを見逃さないよう努めている。意思表示があった方(定期的な習慣がある方)は、その習慣が続けていけるよう支援している。また、利用開始時に、家族から利用者の意向や生活について聞き取りを行い、その情報も活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○利用時の面談で把握、また、その後の生活の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○日常的に確認し、ケース記録として残している。また、事業所内での職員会議において周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○介護計画は、月1回開催する職員会議においてモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しをしている。 ○家族の希望は、出来るだけケアに反映するように努めている。	介護計画を作成にするにあたり、利用者本人、家族、ケアマネジャー、担当職員、看護師のほか、時には医師の意見等も踏まえている。職員会議(月1回)時にモニタリングを行い、見直し・更新は、6ヶ月ごとに行っている。家族の意見は、面会時等に伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○職員会議、朝礼、連絡ノートで情報を共有しより良いケアを目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○傾聴ボランティア等を受け入れたいと考えている。 ○今後様々な取り組みを行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○地域の行事見物や参加、外出する際にはお客様の出身地等も考慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○事業所では協力病院を設定しているが、家族の希望でなじみのかかりつけ医の受診対応を行っている。	利用者の中で2名の方がこれまで同様のかかりつけ医に通っている。他の7名の方は事業所の協力病院でもある一戸病院に通っている。通院介助は、8割の方が職員が対応している。日常生活の状況を医師に伝えるための情報は、家族が通院対応の際は、口頭でお知らせし、伝えてもらっている。必要に応じて、職員も家族と共に通院対応を行うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○日常的に看護師へも報告・相談し助言や指示を受けて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○情報共有シートの活用や、面会により入院後も状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○事業所では看取りを行っていないが、重度化した場合や終末期には、法人が運営する併設の特別養護老人ホームにおいて対応ができることを説明し、了承を得ている。	グループホームでの看取りは行っていないが、重度化や終末期に近づいた際には、隣接の特養ホームで対応することが可能なことを家族へ伝達しており、将来的な不安の解消を図っている。ADLの著しい低下などが見られる場合、住み替えの話をするなどしているが、その直前まで、できる限り事業所内で利用者の生活を支えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○マニュアルを基に研修なども実施しながら対応できるよう体制を整えている。 ○契約時の際、緊急の場合の対応を家族に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年2回防災訓練を実施している。 ○地域消防団との協力体制をとっている。	消防署立ち合いで、春と秋に避難訓練を実施している。春には日中、秋には夜間想定で行っている。今後は、夜間訓練実施に向けての準備(職員による避難経路の確認や、冬季間の避難動線の状況等確認)を行っていただきたい。備品は、食料や水、オムツ、暖房器具などを揃えている。地域消防団との協力体制としては、水害の心配があるような場合に、事業所の様子を見に来ていただいたり、法人等の夏祭り際には、火気使用になることから、危険の無いよう見廻りをしてきている。火災以外の災害として事業所周辺にある馬淵川の氾濫が想定されることから、法人としてのハザードマップを作成することや、地域のハザードマップづくりがなされていくことが期待される。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○プライバシー保護マニュアルを基に対応している。	プライバシーと尊厳を分けて考えている。排泄等の失敗の際にも、人目につかないよう配慮し、礼節を重んじ対応している。既存のマニュアルがあり、実際の状況に合わせて見直し(今年の春)を行った。利用者の状況を職員皆で把握・共有している。法人でのオリエンテーションで、しっかり学び、日常生活の中での関わりに不適切な状況が見られる際には注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○毎日の着替えや入浴時の衣類の準備、嗜好品の選択など入居者に選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人ひとりに合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○同上		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○食事の準備や後片付け等一緒に行っている。	食べたいものなど、リクエストは可能となっている。おやつは、事業所で手作りも行っている。季節ごとの行事食や外食、出張寿司屋(敬老会時)も来てくださる等、楽しみながら食事をしている。また、利用者の活躍の場面として、広い厨房で職員とともに食器洗いを行っていただくほか、テーブル拭き、お盆拭きなどがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○確実な食事と水分が摂取出来るよう一人ひとりの状況を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○本人の力に応じた口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、日中はトイレでの排泄に努めている。	1日に1,500mlの水分摂取を目指しており、トイレでの排泄に努めている。また、食物繊維(サンファイバー)摂取により、排泄しやすい環境づくりにも取り組んでいる。日中の時間帯は、チェック表を活用しつつ、定時の声がけのほか、個別の声掛けを行い、失敗のないよう支援している。4名の方が綿パンツ、5名の方がリハビリパンツ使用しており、機能低下にならないよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○一日に1500mlの水分摂取を目指しており、トイレでの排泄に努めている。 ○ファイバーの使用により自然排便を促している。 ○運動量を増やす為に散歩や体操に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	○目安としての入浴時間帯等はあるが、個人の意思を確認したうえで対応している。	週に2回は入浴できるように支援している。定期的な入浴日や曜日は決めず、利用者のタイミングに合わせ、いつでも入浴可能なように準備(湯張り等)をしている。入浴剤や、ゆず湯を取り入れている。入浴を好まない方もいるが、声掛けの工夫により定期的に入浴していただいている。利用者の機能等低下に対応するため、リフト浴を使用しており、実際に使用している方は4名いる。着替え等、自分で行う方もおり、それぞれの状況に合わせた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○居室・囲炉裏の間・ソファを活用し個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○投薬説明書を読んで把握に努めている。 ○必要に応じ看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○個々に合わせた役割作りを行っている。 ○嗜好品については、家族の協力を得ている。 ○色々な気分転換方法を試して張りのある生活を送って頂けるよう工夫していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○事業所周围の遊歩道を散歩している。 ○気分転換を図ってもらうよう定期的に外出をしている。	施設全体の遊歩道を散歩することもある。気候のよい時は、出来るだけ外に出るようにしている。毎日のゴミ捨てなどの役割を持って貰うことで、意識的に外に出ている。企画の外出として、花見や紅葉狩りに出かけている。また、病院への通院も、外気に触れるチャンスと捉え活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○希望がある場合は対応している。 ○物盗られ妄想がある方の場合には対応が難しい場合もあると感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○家族から電話があった場合には取り継いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○季節に応じた装飾を施している。	1ユニットの事業所であるが、全体的に広い造りで、利用者が集えるような空間が3カ所ほどあり、1丁目、2丁目、3丁目と呼んでいる。日常的に利用者は、食堂がある真ん中の2丁目で過ごしていることが多い。居心地の良さに配慮し、空気清浄機、加湿器があるほか、装飾品に工夫を凝らし飾っている。また、2丁目共用空間には、小上がりがあり、大きい掘りごたつがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○1丁目、2丁目、3丁目、と別れた空間があり、ソファ、囲炉裏の間、テーブル等思い思いにくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○入居前の説明文書に記載しており、また、入所時にも説明はしている。	事業所備え付け品が多いように見受けられる。洗面台、ベッド、木製の整理ダンス、椅子、パネルヒーター、防災頭巾、家具調ポータブルトイレ(必要な方のみ)がある。テレビの持ち込みをしている方もいるが、全体的にシンプルな個室となっている。ポータブルトイレやリハビリパンツ等の収納の工夫など、利用者の尊厳を大切にした居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○「できること」「わかること」を把握し、声掛けや誘導により、ほぼ自立した生活を送ることができている。		